みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

調査地に見る韓国社会の変容

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2009-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 嶋, 陸奥彦 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00001419

朝倉敏夫・岡田浩樹編『グローバル化と韓国社会――その内と外』
国立民族学博物館調査報告　69

調査地に見る韓国社会の変容

嶋　陸奥彦
東北大学大学院文学研究科教授

はじめに：圧縮される世界

仙台空港を午後１時半に発つ便に乗ると４時前後に仁川空港に着く。夕方７時の便に乗り換えて大邱空港に着くのが７時半。荷物を受け取ってタクシーで市内西部の調査地に向かい，８時半までには定宿の旅館にたどり着くというのが，ここ５年ほどの決まり切ったスケジュールである。

これを初めて韓国を訪れた1969年夏のスケジュールと比べてみよう。あのときは東京を夕方６時頃に出る新幹線で新大阪まで行き，深夜の大阪駅で夜行列車に乗り換えて翌朝小倉着。そして夕方に出航する貨客船アリラン号に乗船して，釜山に上陸したのが三日目の朝８時半頃だった。東京を出てから38時間以上かかったのである。韓国国内では最初の高速道路となる京釜高速道路も未開通だった。

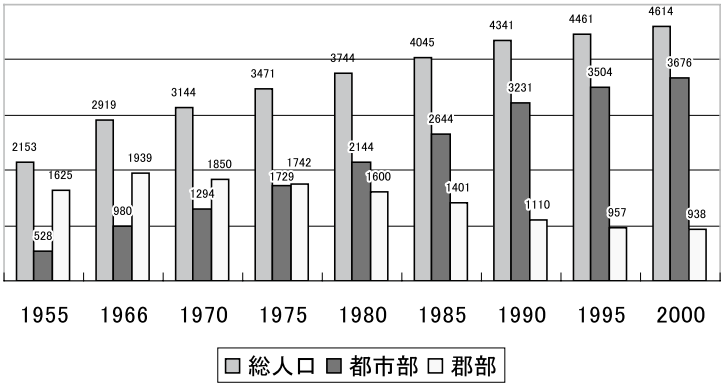
1974年に全羅南道の青山洞という村で調査を始めたときは，光州まで開通していた湖南高速道路（片側１車線）経由のバスでソウルから４時間半。光州でローカルバスの停留所へ移動し，木浦行きの直行バスに乗り換えて約１時間。面所在地のバス停から歩いて25分。途中の乗り換え時間等を入れると７時間以上はみておかなければならなかった。

写真1　釜山港　1969年8月

写真2　ソウル・明洞　1969年8月

03嶋.indd　17　　2007/04/18　8:41:47

人口の推移（単位：万人）



1980年と81年の慶尚北道上月洞の調査のときは，当時住んでいた広島からの直行便がまだ開設されていなかったので，大阪または福岡を経由してソウルへ向かった。ソウルで１泊して，セマウル号で東大邱駅まで３時間あまり。北部停留所から直行バスで星州まで１時間。そしてローカルバスで村の入り口の停留所まで約15分。ソウルからの所要時間はおよそ６時間だった。セマウル号が走る前はどれだけかかっていたのだろう？69年に東大邱から大田まで急行列車で３時間近くかかったような気がするが，記憶は定かではない。

ソウルと日本の地方空港のあいだに定期航空路線が次々に開設されたのは1990年代だった。そして私自身に韓国で国内便の飛行機を利用するという発想の大転換が起こったのは21世紀に入ってからである。その結果，ソウルで１泊せずに直接調査地に向かうということが実現した。私が現在住んでいる仙台から調査地までの所要時間は，仁川空港での３時間の待ち時間を含めても７時間に短縮された。グローバル化とは，世界の圧縮と一つの全体としての世界という意識の強化を指す概念である［Robertson 1992:8］という指摘のうちの世界の圧縮の部分は，フィールドワーカーである私にとっては「そこへ行くのにかかる時間の短縮」というかたちで劇的に顕れている。

情報通信技術の進歩による世界の圧縮も改めて言うまでもない。旅館のテレビをつけ

表1　1人あたりGNPの変化

1960年	＄79
1970年	＄253
1980年	＄1,597
1990年	＄5,883
1996年	＄10,543
1997年	＄9,511
2002年	＄11,493

（1994年以降はGDP）

表2　月背地域のアパート開発

第一次開発（1987〜89年）	５階建て	3,000世帯分
第二次開発（1993〜94年）	20階建て中心	15,000世帯分
第三次開発（1994〜97年）	15／20階建て	12,200世帯分

03嶋.indd　18　　2007/04/18　8:41:50

表3　月背地区の人口の推移

年次	人口
1965年	10,750
1970年	14,491
1974年	23,005
1979年	36,095
1984年	65,288
1989年	151,602
1994年	241,875
1999年	269,722

れば，韓国国内放送のチャンネルはもとより，NHKの衛星放送もCNNニュースも見られる。人々との連絡に携帯電話が欠かせなくなったため，仁川空港に降りるやいなやレンタル・コーナーに向かうことになったのも2000年代に入ってからである。その結果，露店商街の調査中に仙台の研究室から電話がかかってきたりする。

グローバル化という言葉は，このような交通・通信技術の革新によって国境を越えた繋がりが双方向的に極めて緊密化し多様化したことを受けて広く使われるようになってきた。しかし全ての人々，全ての側面が等しくまた直接的にグローバル化しているわけではない。私が調査地で出会ってきた人々の多くにとっては，グローバル化は主として間接的な関係［Calhoun 1991］，とりわけ経済成長と都市化にともなう生活様式の変化というかたちで表れていると見るべきだろう。本稿ではその変化を，私が1996年以来調査を進めてきた大邱市達西区月背地域の事例を中心にしながら，視覚的に検討してみることにする。

1　都市化の状況

月背地域（旧達城郡月背邑）は1981年に大邱市に編入された。1984年に策定された大邱市の開発計画［大邱直轄市 1984］では，月背地域の北西部は準工業地域，東部と南部は中密および高密住宅地域に指定された。それを受けて，1987年以降三次にわたってアパート団地が開発された。これによって1984年から99年までの15年間に人口は４倍に増加し，地域の景観は一変した。

写真３と４は，第二次開発の前と後を月背地域北西部のほぼ同じ位置から南東方向に向かって写したものである。わずか６年のあいだに巨大な高層アパート団地が出現し，また写真中央の集落の周辺には工場の建物が増加している。水田の中には，朝鮮時代以

写真3　高層アパート建設前の月背　1990年4月

写真4　第二次開発後の月背　1996年8月

03嶋.indd　19　2007/04/18　8:41:50

写真5　開発進む月背俯瞰　1997年8月

写真6　残った上仁洞集落　1996年8月

来続いてきた租岩という集落の名の由来となる立岩が４～５個残っていた。写真５は月背地域東部のアパート屋上から南西方向を写したもので，画面手前は準工業地区に指定された地域だが，この場所も2000年代に入ると住宅開発地域に変更され，高層アパート団地と化した。

アパート団地開発は農地や山林を造成して行われ，旧来から存在した集落そのものは基本的に残された。写真６は第二次開発でアパート団地に隣接しながらも残った集落である。しかし，ここもまもなく古い建物は姿を消し（写真７），単独住宅街に姿を変えていった。15世紀後半から続いてきた集落の消滅だった。住宅地開発と平行して地下鉄１号線が建設され（写真８），月背地域は大邱市中心部と直結していった。準工業地域では農地を転換して小規模工場が次々に建てられ，立岩も姿を消そうとしていた（写真９）。

写真7　撤去される上仁洞集落　1998年8月

写真8　地下鉄工事　1996年8月

写真9　路肩にかろうじて残る立岩　2001年8月

03嶋.indd　20　　2007/04/18　8:41:51

2 変化する祖先とのかかわり方

写真10は1960年代後半に建てられた齋室である。これを所有するのは16世紀初頭からこの地域に住み続けてきた土着の門中だが，齋室を建てたのはこれが初めてだった。村を出て商業である程度成功した人の寄付によって実現したのだという。韓国の経済成長が本格化するなかで，70年代後半から80年代にかけて齋室を新築したり祖先を顕彰する石碑を新たに建てたりすることが全国いたるところで盛んに見られた（写真11，12)。「両班化」として注目された伝統の隆盛現象の一部である。しかし，それは儒教的思想の高揚というよりは，都会へ出て社会的に成功した人々の証しの行為と見るべきだろう。ワトソンが中国の葬儀に関して提起したorthodoxy（正しい思想）とorthopraxy（正しい行為）の区別［Watson 1988］にならっていえば，それはorthopraxyの性格の強いも

写真10　月背の一トバギ集団の齋室

写真11　新築中の齋室（星州郡）1980年

写真12　新たに建立された石碑（羅州郡）1990年

写真13　アパート団地のそばに残った墓地での時享祭　1998年12月

03嶋.indd　21　2007/04/18　8:41:52

写真14　遠隔地に移転整備された墓地　1996年8月

写真15　時享祭に向かう車の列　1997年11月

のだった。

都市化は近世後期以来の祖先祭祀のあり方に直接的な影響を及ぼしている。宅地開発の手は墓地や位土（祖先祭祀の経費をまかなうための田畑）にも及んだ。収用された土地にあった墓は移転をせまられた。多くの場合，移葬先は集落から数十キロも離れた場所だった。車社会化したことで可能になった選択である。位土については，収用に伴う補償金で賃貸ビルを建てた門中の例がいくつも見られた。移葬先の山村に改めて位土を買い求めた門中もあるが，農山村の過疎化が進む今日，その位土からの収入はもはや期待できない（写真13〜18）。

1990年代初頭に編纂された族譜には，移葬の記事に混じって「大邱市都市計画により火葬」という記載がいくつも見られる。呵責なく進められる開発に追われ，移葬先を確保できないままにやむをえず祖先の遺骨を火葬に付したもので，無念の思いのにじむ記録である。ところが90年代半ばを過ぎる頃から，韓国全体で火葬推奨の動きがかなり明確に表れてきた。月背のトバギ集団の中にも，将来の火葬化に備えて納骨堂を建てた門中があ

写真17　変化以前：位土の作柄を確認する門中の長老たち（羅州郡）　1974年9月

写真16　時享祭に同行した女性たち　1997年11月

03嶋.indd　22　　2007/04/18　8:41:53

る。思考方法に変化が起こっている（写真19）。

このような変化に抗するかのように，伝統の継承という名目で修築された齋室があった。租岩は16世紀以来３つの親族集団が親和的な関係で共住してきた集落と言われている。彼らはその事実を刻んだ石碑を建て，少なくとも朝鮮時代の後期以来共同で記念の祭祀を行ってきた。石碑のそばには19世紀半ばに建てられた齋室があった（写真20）。この伝統が認められ，齋室は大邱市の補助を得て美々しく改築された（写真21）。しかし三つの親族集団のうちの一つは既に全戸が転出しており，もう一つの集団も急速に戸数が減少している。

墓地の遠距離移転，集落の消滅，親族の転出による地縁親族集団の解消，そして火葬化。親族の紐帯は今後どのような形をとってゆくのだろうか？

写真18　変化以後：位土に代替する収入源としての門中会館　1996年8月

写真19　新たに建てられた納骨堂　1998年12月

写真20　改築前の齋室　1996年12月

写真21　改築された齋室　2003年8月

3 新たに出現する風景

T地区は月背地域の第三次高密住宅開発で建設されたアパート団地である（写真22）。東西1.4キロ，南北700メートル，面積およそ0.9平方キロメートルの区域に137棟の高層

03嶋.indd　23　2007/04/18　8:41:54

写真22　Tアパート団地の入り口

写真23　Tアパート団地中心部の商業ビル

写真24　歩道に展開する露店商街　2002年8月

写真25　大規模な野菜店　2002年8月

アパート・ビルが建ちならび，人口およそ5万人の町が出現した。中心部の商業地区に並ぶ40棟あまりのビルには，銀行やスーパー，薬局やブティック，そしてハンバーガーやフライドチキンなど海外から入ってきたおなじみのファースト・フードのチェーン店が軒を連ねる（写真23）。旅行代理店の窓には海外旅行のポスターが目を引く。すぐ近くにオープンしたデパートは，世界のどの都市のそれとも変わらない姿である。

しかし商業地区の路上に展開したのは，「グローバルに普遍的」とはほど遠い現象だった。大規模な露店商街の出現である（写真24）。野菜や果物などの青果物，揚げ物やチジミなどの加工食品，アクセサリーや衣類，台所用品に寝具などありとあらゆるものが売られている。消費者たちはスーパーや常設店舗と露店とを見比べながら買い物をして

写真26　女性たちの小規模な店　2003年8月

写真27　ニンニクをむき，ニラを束ねる　2003年8月

03嶋.indd　24　　2007/04/18　8:41:55

写真28　瓜をきざんで売る　2003年8月

写真29　ジョン（チジミ）を焼く屋台　2003年8月

いる。

露店商人の属性は多様である。長年にわたってあちこちの露店商街で商売をしてきた人もいれば，この地区に引っ越してきて初めて露店を開いた人もいる。間口15メートル以上の場所に天幕を張った大規模な店もあれば（写真25），幅1メートルあまりの小さな場所で商売をしているお婆さんもいる（写真26）。どの店でも商人たちはいそがしく手を動かしている（写真27～29）。

これらの露店の店先を，30年ほど前の田舎の定期市のそれと比較してみよう（写真30，31）。当時の定期市では野菜や果物は商品の主流ではなく，特に野菜などは近隣農家の主婦が現金を手に入れるために持ち込むものにほぼ限られていた。しかし現在の露

写真30　羅州郡の定期市　1974年

写真31　星州郡の定期市　1980年

写真32　産地名を表示した唐辛子の箱　2001年

写真33　中国から輸入された花ゴザ　2003年8月

03嶋.indd　25　2007/04/18　8:41:56

店商街では，お婆さんたちの小規模な店に並んでいる野菜も含めて，ほとんどが卸売市場を経由して流通している商品である（例外は後述）。その市場機構を通じて，各地の生産物が全国に出回ってゆく。大規模な露店商が市場から運んでくる農産物を入れた段ボール箱には生産地名が印刷されており（写真32），場合によっては生産者名まで書いてある。そこから農村の側に特定の作物に特化した「特産地」が続々と発生している様子もうかがい知ることができる。

国内の流通機構はそのまま国際的な市場ネットワークに連接している。中国から輸入された豆やゴマ，キノコなどが並んでいる。東南アジアやインド製の工芸品・繊維製品も売られている（写真33，34，36）。逆に日本向けの輸出用に生産されたと見られるものの一部が混じっていたりする（写真35）。都市人口が総人口の80％を越え，高層アパートが都市の典型的居住空間になってくるのと平行して，人々の日々の消費生活も市場を通じて国境の向こう側と緊密に結びついてきている。

写真34　インドから輸入された衣料品　2003年8月

写真35　日本向けに生産されたカボチャ　2002年8月

写真36　国産豆使用の豆腐は輸入豆使用の豆腐の倍以上の値が付く　2004年6月

露店商街の形成を促したアパート団地の出現は，周辺の農村地帯にも変化をもたらした。住宅開発地域の南側はグリーンベルトに指定されて開発が禁止された。そこで農業を継続する農家の中には，露店商街で販売するために野菜生産に主力をおくようになったケースが少なくない。この場合には生産農家の女性たちがフルタイムで露店商化している。

アパート団地に隣接する場所では，土地の所有者が農業をやめ，農地を小さな区画に分けて「週末農場」（日本でいう家庭菜園）としてアパート住民に貸与するようになったところもある（写真37）。すると今度はそれを賃借したアパート住民が「自家生産物」を露店で売る「生産者兼直売者」になるケースも現れた。

グリーンベルトの農村に登場しているもう一つの現象が新装開店する食堂や酒家であ

03嶋.indd　26　　2007/04/18　8:41:56

写真37　週末農場　2003年8月

写真38　グリーンベルトの村に開業した食堂
2000年7月

る（写真38）。顧客は市内から自家用車で遊食に来る人々。アパートの住民ももちろん客の候補者に含まれる。かつての農業用貯水池は散策者用のレジャー公園に変わった。

4 露店商街から見るトランスナショナルな関係

「グローバルで普遍的」とはほど遠い露店商街だが，そこで出会う人々の暮らしの中にも，トランスナショナルな関係が具体的・個別的な顔をのぞかせている。ランダムにいくつか拾い上げてみよう。

フィールドワーカーである私にとってもっとも示唆的だったのは，多くの男性露店商たちの経歴に見られる「IMF事態」の影響だった。1996年に入居のはじまったT地区の場合，入居の翌年の1997年に韓国経済をおそった国際通貨危機によって，会社を解雇されたり自営の事業が倒産したりしたために露店商を始めた人々が少なからずいた。平均的市民の居住空間となった高層アパートと，その住民を含む韓国社会全体を襲ったIMF経済危機。これは現代韓国社会について二つのことを語っている。その一つは，T地区の露店商たちはまさに平均的都市住民であって，しばしば言われる「周辺化された都市貧民層」ではないということ。もう一つは，韓国において露店商という職種が経済的危機に対処する選択肢として，今日もなお有効に機能しているということである。この選択肢は日本やアメリカにはほとんど存在しない。

露店商たちは平均的市民であるという印象を私が強く受けた現象の一つに，彼らの子供たちの教育問題がある。教育熱の高いことで知られている韓国では，経済成長と平行して進学率がどんどん高くなり，2003年現在で，高等学校までの進学率はほぼ100%，その上の高等教育（大学，短大等）への進学率も80%近くに達している。それはそのまま露店商の子供たちの進学状況である。私がかなり親しく知り合いになれた50店ほどの露店商のなかにも，大学生の子供を持つ親が10組おり，そのうち３組は二人の子を大学に通わせていた。そのうち一組の夫婦の娘は，中学生のころに日本のアニメを見るために独学で日本語を学び始め，そのまま私立大学の日本語学科に進むことにしたのだとい

03嶋.indd　27　2007/04/18　8:41:57

う。彼女は交流協定を結んでいる日本の大学に留学したいとアルバイトを続けていた。(彼女が中学生だったころに日本の大衆文化が解禁になったのだ。商業ビルのなかにある貸しビデオ屋には日本のアニメ・ビデオが並び，貸本屋でも翻訳された漫画が棚を埋めている。) 別の露店では，商売をしている母親のそばで高校生の娘がこんな話をしていた。姉妹校提携をしている日本の高校の生徒たちが交流にやって来るというのだ。「お母さん，うちへ連れてこようか？」 国境を越えた往来がごく自然に話題になっている。この状況は「周辺化された都市貧民層」という枠組みでは捉えられまい。

露店商街の通行人のなかに，若い西洋人の姿が混じっている。商業ビルの中にある外国語学院の教師たちである。英語を母語とする専任教員を 3 ～ 4 人おいている学院が11校あるから，この街区で英語を教えている外国人が40人近くいることになる。授業のプログラムは就学前の幼児対象のものから成人対象までさまざまだが，圧倒的に多いのが初等学校生（小学生）対象のクラスである。いくつかの学院のプログラムとクラス数から推定すると，実数で8,000人以上の子供たちが，毎週ネイティブの教員から英語を学んでいる計算になる（写真39)。この中から将来の留学生が生まれることになろう。近年話題になっている「早期留学」(英語学習のために小中学生の段階で母に伴われて英語圏へ留学する)の予備軍でもあり，それが実現すれば「雁のお父さん(キロギ・アッパ)」(妻子を送り出して仕送りを続ける父親）が生まれることになる。さすがに露店商の中にキロギ・アッパはいないが，それと直結する現象が目の前で日常的に展開しているのである。

写真39　外国語学院の送迎バス　2003年8月

早期留学とキロギ・アッパが社会階層の上の方にかかわる現象であるとすれば，下の方の階層にかかわって起こっているのが外国人労働者と外国人妻たちである（国際結婚に見られる階層的二極分化現象については，［Cho 2005］参照)。月背地域でも，中小工場の集まっている地区や工事現場では外国人労働者の姿をしばしば見かけた。しかし私自身のフィールドワークはそこまで及んでいない。

03嶋.indd　28　　2007/04/18　8:41:57

おわりに

1996年から大邱市で行ってきた調査はグローバル化や社会変化をテーマにしたものではなかった。しかし70年代以来各地で行ってきた調査と重ね合わせると，社会の変化の大きさを実感するし，それをもたらした基本的条件が経済発展であり，その過程で様々なレベルで国境を越える関係が緊密化してきたことに思いを致さざるをえない。都市化に対する親族組織の対応も，新たに開発されたアパート団地に出現した露店商街の現象も，直接的にグローバル化に関係させて論ずることはできないとしても，グローバル化といわれる世界大的展開のなかで起こっている事象であることは間違いない。

トランスナショナルな繋がりが一般の人々の日常生活に及ぼす影響の大半は，カルフーンが「間接的」と呼んだ関係を通してのものだが，時には個々の市民が直接にトランスナショナルな繋がりに関わる場面も登場する。世界は確かに圧縮されてきている。そのことによって調査地の人々が「一つの全体としての世界」を意識するようになったとまでは思わない。しかし本稿で取り上げた写真は，経済成長とグローバル化が生活現場に及ぼしてくる影響の多様なあり方を見せてくれている。

文　献

Calhoun, Craig
1991 “Indirect Relationships and Imagined Communities: Large-Scale Social Integration and the Transformation of Everyday Life” in Bourdieu, Pierre and James S. Coleman (eds.), *Social Theory for a Changing Society*, pp.95-121, New York: Russell Sage Foundation.

Cho, Uhn
2005 The Encroachment of Globalization into Intimate Life: *The Flexible Korean Family in “Economic Crisis”*, *Korea Journal*, 45(3): 8-35.

大邱直轄市
1984 『大邱都市基本計画』。

Robertson, Roland
1992 *Globalization: Social Theory and Global Culture*. London: Sage.

Watson, James L.
1988 “The Structure of Chinese Funerary Rites: Elementary Forms, Ritual Sequence, and the Primacy of Performance.” In Watson, James L. and Evelyn S. Rawski (eds.), *Death Ritual in Late Imperial and Modern China*, pp.3-19. Berkeley: University of California Press.

03嶋.indd　29　2007/04/18　8:41:57

03嶋.indd 30 2007/04/18 8:41:58